

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	エスパシオエンタープライズ株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中区錦三丁目23番18号 ニューサカエビル8階
工場等の名称	名古屋観光ホテル
工場等の所在地	名古屋市中区錦一丁目19番30号
業種	宿泊業、飲食サービス業
業務部門における 建築物の主たる用途	ホテル・旅館
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	宿泊・宴会・飲食
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年8月14日 ～ 令和6年11月12日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 名古屋観光ホテル内 地下1階 施設課
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-231-7696		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

＜サステナビリティ推進の基本方針＞

当社は、企業理念「私たちの使命は、お客様の満足を第一に、最高品質のホテル・サービスを提供することです。そのために、絶えず創造的変革に挑戦し続けるとともに、新たな伝統を築き、環境に優しいホテルの実現と地域社会の発展に貢献します。」に基づき、企業活動を通じた価値創造により、持続可能な地球環境や社会の実現に貢献することを目指します。そして、すべてのステークホルダーから選ばれ続ける企業として取り組みを進めてまいります。

1. 企業としての社会的責任を深く自覚し、健全で持続可能な事業活動を行います。
2. 全てのサービス分野で、安心、安全、公正、適性を念頭に改善・実行します。
3. 常に国内外の情勢を念頭に、社会的活動の実行に努めます。
4. ステークホルダーとの信頼関係を築き、地域社会の発展に貢献します。
5. あらゆる面で環境に十分に配慮した「環境に優しい企業」をめざします。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

2023年度より「サステナビリティ委員会」の主管部署が経営企画室

(委員長：執行役員 経営企画室長) となり、より全社的に推進できる体制となった。

◆ 全部門に委員を置くとともに、下記チーム単位で主体的に活動を推進

- ① 循環型社会の実現／気候変動への対応チーム
- ② ステークホルダーコミュニケーションチーム
- ③ ダイバーシティ推進チーム

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		6,004	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	6,004	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量	5,589	t-CO ₂	5,555	t-CO ₂	5,943	t-CO ₂	6,004	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			0.6	%	▲ 6.3	%	▲ 7.4	%	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの 排 出 量									
削減率（対 基準年度）				%		%		%	%
原単位あたりの みなし排出量									
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

コロナ禍で大幅に稼働が落ちた基準年度より、客室稼働や利用人数と宴会・料飲の利用人が増えた為

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理/エネルギー使用量等の把握及び管理	主要設備等の点検、検査措置の記録・管理	ボイラー、ターボ冷凍機、吸収式冷凍機の運転記録の管理、メンテナンス報告書の保管	ボイラー・圧力容器点検整備、性能検査の実施 ターボ冷凍機・吸収式冷凍機点検整備
省エネルギー・省資源の推進／空調	・クールビズ・ウォームビズの推奨 ・設備の運転時間・温度・外気取入量の管理(空調負荷低減)	・クールビズ期間(5月～9月) ・外気冷房の運用(3月～5月・9月～11月) ・可能な限り外気抑制(6月～9月)	クールビズの実施 外気冷房の運用
省エネルギー・省資源の推進／照明	・バックヤードの照明をLED化 ・未使用部屋の消灯を徹底する	令和6年度までに全てLEDに交換する	バックヤード照明のLED化 全体の50%実施
省エネルギー・省資源の推進／OA機器	・昼休みにパソコン電源をオフ ・パソコンについて省電力設定の推進 ・パソコン、コピー機入替えの際は省エネ型を導入		パソコン画面の明るさ調整実施 省電力設定推進
自動車利用における取組	営業車エコドライブ推進(車両ごとの燃費管理)		エコドライブ推進 年間給油量の管理
廃棄物の排出抑制	・ITの推進(SNSを活用したデジタル化によるペーパーレスの推進) ・生ゴミ発生の少ない材料の購入、調理方法の工夫 ・リサイクルループの構築		ペーパーレスの推進 少量材料の購入
その他／グリーン購入の推進	環境ラベル商品等の購入、使用		環境ラベル商品の購入
その他／自動車利用の抑制	社員、従業員のマイカー通勤の規制(申請制度)		マイカー通勤の規制

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

館内バックヤード照明のLED化（3階～4階）を実施 空調機・排風機の更新工事を実施
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

毎月10日を目途に各部門で省エネ行動を点検し、チェックリストを提出。 （「タイヤ空気圧チェック」は点検スケジュールに左右されるため取り組みを変更）
--